

アブドゥル・カディルさん / 日本大学
Mr. Abdul Kadir / Nihon University

<外国人研究者プロフィール / Profile>

国籍: Nationality:	インドネシア Indonesia
日本留学時の滞在期間: Period of Stay During in Japan:	2001年4月 ~ 2003年3月 April, 2001 ~ March, 2003
日本留学時の大学: Education Background in Japan:	広島大学 Hiroshima University
専攻分野: Major Field:	船舶工学 Naval Architecture
現在の所属/職位: Present Institution/Status:	インドネシア技術評価応用庁 / 浮体研究員 Agency for the Assessment and Application of Technology / Researcher for Floating Structure



アブドゥル・カディルさん
Mr. Abdul Kadir

<研究報告 / Follow-up Research Fellowship>

受入研究者氏名: Research Adviser:	増田 光一 教授 Professor Koichi Masuda
受入れ期間: Researching Period:	2010年7月3日 ~ 2010年9月30日 July 3, 2010 ~ September 30, 2010
研究課題: Theme of Research:	浮体式石炭備蓄設備の初期設計と流体力学的解析 (インドネシア, カリマンタンにおけるケーススタディー) Design Analysis of Floating Coal Storage

■研究概要 / Outline of Research

1. 2010年から2025年のインドネシアにおける石炭生産目標により、石炭荷役の増加を推定するために石炭生産、石炭輸送システムおよび石炭荷役可能量のデータ解析を行った。
2. カリマンタン周辺沿岸海域の水深と石炭荷役可能量の必要性を基準とした浮体式石炭備蓄システムの基本規模を決定した。
3. 水深と波浪特性に応じた上記浮体式構造物の流体力学的解析を実施した。なお、そこでは流体力や波強制力の検討を行った。
4. 波浪特性に応じた係留システムの解析を行った。



日本大学理工学部での特別講演(石炭備蓄浮体の開発)

Part of slides presentation of Special Lecture at College of Science and Technology Nihon University

■研究成果 / Result of Research

インドネシアでは、今後25年以内に年間およそ4億5千万トンの石炭荷役可能量を増大させる必要に迫られる。石炭荷役施設の開発のための浮体式石炭備蓄の有効利用は石炭荷役過程の効率化と環境影響の最小化のために必要な選択である。

本研究では、長さ250m、幅100m、深さ12mで150,000トンの積載量である浮体式石炭備蓄基地の初期設計が行われた。波周期と水深を変化させた場合の流体力学的影響が解析された。その中で、複数の波浪条件 (h/d : 1.5, h/d : 2.5, h/d : 10, 入射角度: ° 1: 0°, ° 2: 15°, ° 3: 30°, ° 4: 45°, ° 5: 60°, ° 6: 75°, ° 7: 90°) に対して流体力と波強制力が検討された。

■日本留学の思い出 / Memories of Studying in Japan

This program remind me about Japan especially for the hospitality and friendly after graduated from Hiroshima University seven years ago. During following the program I was supported by professors and all members of laboratory. Any time I presented and discuss my research's topic at research institutions. I respect with the cooperative between research institutions and companies in supporting the research activities in Japan. I think that Japan is Time, means that everything can be measured by time. This is the best one of my memory about Japan.

今回の日本でのプログラムで温かいもてなしを受けたことは、7年前に広島大学を卒業したときのことを思い出させてくれます。今回のプログラムの期間中は増田教授と居駒専任講師をはじめ、研究室のみなさんに支えていただきました。また自身の研究機関についても講演や議論をする機会を与えていただきました。今回の日本での活動に協力して頂いた研究機関と企業の方々に敬意を表します。私は日本はすべてのものが時間で計測されるものだと思います。今回のプログラムは日本で最も思い出深いものになりました。



日大理工での特別講演後

After Special Lecture held on September 14, 2010 at College of Science and Technology, Nihon University



日大理工での特別講演後に参加者との集合写真

After presentation at College of Science and Technology, Nihon University



三井造船昭島研究所での研究紹介
Presentation at Akashima Laboratories
(Mitsui Zosen) Inc. on September 22



国土交通省海事局での研究紹介とディスカッション

Discussion after Presentation at Maritime Bureau, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism in Tokyo